

令和3年 10月 12日

No.79号

山形市立第四小学校
校長 日高 伸哉
〈児童数 196名〉

TEL 623-6019



秋の「資源回収」

奨学会・子育連が一丸となって
「SDGs（持続可能な開発目標）」に直結

「地球上にある豊かな自然や資源を未来に残し、地球に住むすべての人が、誰一人として取り残されず、幸せに暮らせる世界を実現する」ために、2015年の国連総会で、2030年までにめざすべき17の目標が定められました。

目標11には「住み続けられるまちづくり」があります。また、目標12は「つくる責任・つかう責任」の中で、持続可能な生産と消費をめざします。まさに、資源の持続可能な利用を進める「資源回収」は、SDGsに直結する活動です。

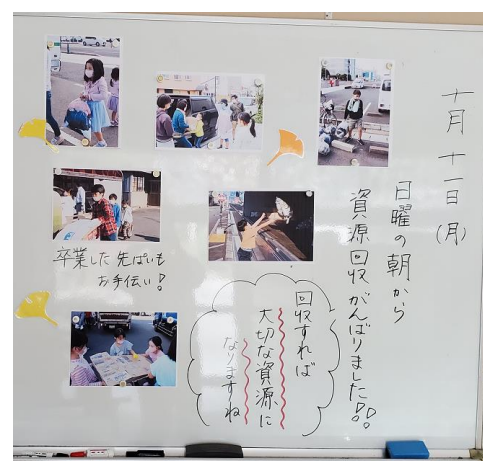


10日(日)の早朝、奨学会と第四学区子ども育成連合会による秋の資源回収。

コロナ禍の中、感染防止に最大限留意して、春に引き続き2回目の開催となりました。向田敏奨学会会長様をはじめ、伊藤陽介副会長様、

杉野誠副会長様、稲村憲治第四学区子育連会長様、奨学会役員の皆様、会員の皆様方、そして、第四学区子育連役員の皆様の連携協力、本当にお疲れ様でした。併せて、第四地区町内皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。また、回収業者の(株)高良様、ビン回収の茂木酒店様にも御礼申し上げます。

今回も、自転車で各集荷場所を回らせていただきましたが、低学年から上学年、さらには卒業生まで頑張っている姿に、嬉しさを感じながら学校に戻った次第です。子どもたちや奨学会役員の方々が、最後まで丁寧に回収にあたられ、額に汗しながら一生懸命に取り組まれておられた姿に胸が熱くなりました。



今年度、4年生の社会科に「ごみのじゅんかんについて考えようー環境と生活を見つめてー」という単元を設定しました。前単元において、「循環」をキーワードに学習を進めた「くらしをささえる水」の学習を生かして「ごみ」についての考えを深めました。キーワード「3R」。リデュース (Reduce)・リユース (Reuse)・リサイクル (Recycle)。資源回収は、環境と生活を見つめる貴重な場となりました。